



ア パ ラ チ ア ン エ ア ー  
**Appalachian Air** ⑮ 四句節や灰の水曜日

Appalachian Mountains (アパラチア山脈) は、カナダとアメリカ合衆国の東北部に延びる大きな山脈です。昨年(2018年)の7月にアパラチア山脈のあるアメリカ合衆国・ノースカロライナ州からやって来た Stefan (ステファン) 国際交流員のコラムです。



This month is March. That means the start of Daylight Savings, so everyone sets their clocks forward an hour. The clocks will be set back again in the fall.

It also means that spring is just around the corner, and for many Americans the biggest holiday in spring is Easter. Although Easter is in April, I want to talk about the Easter season before it.

It is said that Jesus fasted in the desert for 40 days. So to honor this time as well as his eventual martyrdom, there is a 46-day period of fasting before Easter called Lent. Why did he fast for 40 days but modern-day practitioners fast for 46? It's because they were not allowed to fast on Sundays (there are six Sundays during Lent), so six 'substitute days' were added to the end of the original 40 day period. In modern times it is common for people to give up a vice during Lent, like alcohol, smoking, or maybe fast food.

The first day of Lent is called Ash Wednesday. This year it is on March 6th. It is common for an observer to go to church that evening and have a priest put ashes on his forehead while saying in a solemn voice, "Remember that you are dust, and to dust you shall return." Observers aren't supposed to wash the ashes off for a day, so even though on any other day it would be good to tell someone that their face is dirty, on the day after Ash Wednesday you are not supposed to say anything. A smudge on someone's forehead might mean they are contemplating their mortality.

3月の英語は March です。サマータイムが始まるので、時計を1時間遅らせます。逆に秋は時計を1時間早めます。

春がすぐそこまで来ています。たくさんのアメリカの人々にとって、一番大きな春の祭りが復活祭(イースター)です。復活祭は4月ですが、その前の時節について話したいと思います。

イエスは荒野で40日間断食したと言われています。この期間、最終的な殉教を記念するために、復活祭の46日前からの断食期間として四句節(しじゅんせつ)があります。なぜ、イエスは40日間断食したにも関わらず、現在記念する人は46日間断食するのかは、日曜日に断食してはいけなからです。四句節の日曜日は6日間あるので、40日間の断食の終わりに、6日振替(ひきかえ)休日が追加されます。現代で四句節を守る人は、同じ期間に、飲酒や煙草、ファストフードのような悪い習慣をやめることが一般的になっています。

四句節の最初日は灰の水曜日と言ひ、今年は3月6日になります。灰の水曜日を守る人は、その日の夜に教会に行きます。神父さんは「あなたはもともと土から生まれたので、まもなく土に還ります」と、厳粛な声で言いながら、教徒の額に灰を塗ります。そして、灰を1日洗わないようにと言ひます。灰の水曜日ではない日に、もし相手の顔が汚れたら伝えてあげたほうがいいのですが、灰の水曜日の翌日は何も言てはいけません。もし、額に汚れがあったら、その人は生死を黙想している可能性があります。

文化財で見る松島の歴史

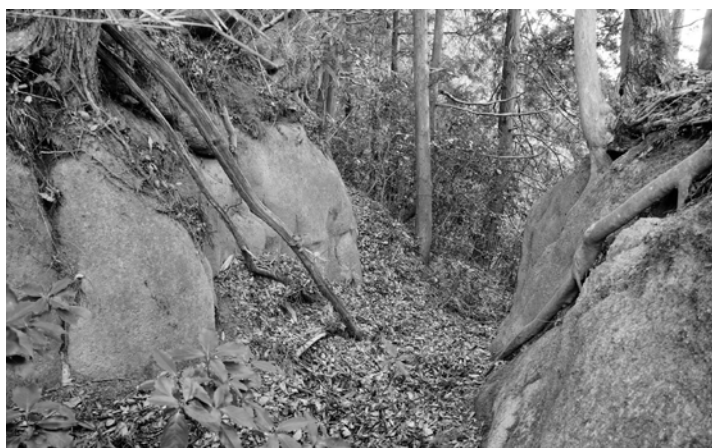
文化財の調査研究④ 館山城跡

ちようど1年前、平成30年3月号でも掲載しましたが、東北学院大学の竹井英文(ひなふみ)先生の城館調査に今年も同行させていただきましたので、その一部をご紹介します。

今回取り上げるのは、町内最大の城館である館山城跡です。東北本線愛宕駅の西、三居山から反町にわたる大きな範囲に広がり、丘陵上を平らにした郭(くわ) (図中A〜I) や通行を遮断する空堀(写真1)などの遺構がよく残っています。岩盤を削り出した石仏(写真2) が彫られているところも確認できます。現在の三陸自動車道の建設に先立って発掘調査が行われ、西郭部分から建物跡や門跡が見つかっています。出土遺物としては15世紀後半頃に作られた瀬戸産の陶器皿が確認されています。

現在の松島町域の大半はかつて竹城保(たけぎほ)と呼ばれ、源頼朝から奥州藤原氏との戦いで功績を挙げた相馬氏(そうま) に与えられていますので、館山城跡も相馬氏の一族によって築かれたのでしよう。相馬氏の支配は古文書により応永年間(15世紀初頭)までは続いていたことが確認できます。その後は利府や岩切を治めていた留守顕宗(るすけんすけ)の子である高城宗綱(たかぎむねつな) という武将が、16世紀末には高城の領主であったことが知られています。

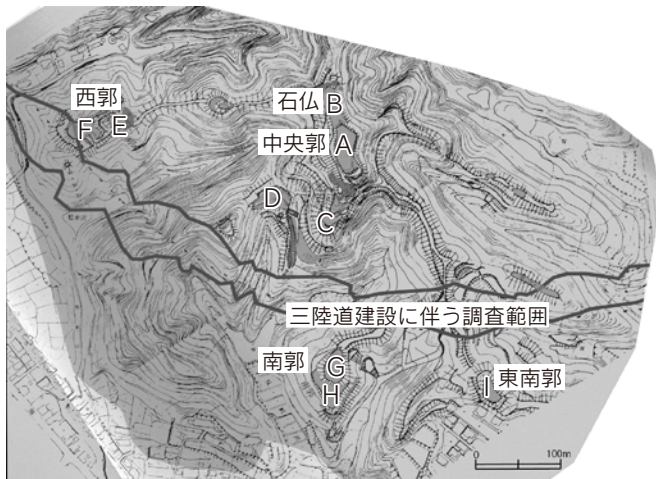
つまり出土遺物の年代、15世紀後半頃の城主が誰であったかはわからないということになります。松島の歴史にはまだまだ謎が多いようです。



▲写真1 郭B北側の空堀跡



▲写真2 岩盤に掘られた石仏



(学芸員・森田)